

11月13日(日)葛飾区男女平等推進センターで、「葛飾区の災害リスクは？災害から受ける影響やニーズの違いとは？」をテーマに防災講座を行いました。

講座は、2部制で行い、第1部は、葛飾区役所危機管理課から葛飾区の災害リスク防災対策について、講義を行い、葛飾区で想定されている地震や水害のリスク、災害が起きた時の避難行動などについてお話をしました。

第2部では、株式会社いのちとぶんか社取締役、東日本大震災・原子力災害伝承館常任研究員の葛西優香(かさいゆか)さんに災害から受ける影響やニーズの男女の違いについてご自身の被災体験なども踏まえながら、災害に対する備えと対応において発生する男女の違いなどについてお話をいただきました。



【概要】

第1部 葛飾区の災害リスク防災対策

- 首都直下地震等による東京の被害想定について、● 葛飾区の水害リスクについて● 区の補助制度について
- 避難行動について、● 避難生活期について● 防災活動拠点について

第2部 災害から受ける影響やニーズの男女の違いについて

過去の災害において、男性、女性がそれぞれの固定観念で、役割分担されてしまい、お互いの負担につながりました。また、現場のリーダーを男性が担わなければならないというルールもなく、むしろ女性が担った避難所もあります。このような固定観を取り除くことが避難所運営等を行ううえで重要です。

避難中（震災後・水害時）

責任感の強い男性は要注意！
気づかぬうちに疲労が溜まっている。



■ある男性(管理職)
避難者の方がどんどん来た。環境を整えることに専念していたら、自分が倒れた。



■ある男性
リーダーが疲ずに対応してくれていた。「代わりますよ」と言っても聞かない。早めに解散だったからよかったけど、、、



■ある男性
食糧配給の残ったものばかり食べていた。栄養が偏り、糖尿病になった。

避難中（震災後・水害時）

この仕事は女性にしかできない、
って決めつけてしまっていないか？



■ある女性
炊き出しをしていて、ずっと行列。皆さんに渡しているだけで、気づいたら、無くなった。人が足りない！



■ある女性
トイレがウンチの山。匂いもすごいし、不衛生。誰かが掃除をしないと、どうにもならない、、、よね。

【参加者からの声や疑問】

- 地域の助け合いの重要性を感じたけど、近所に知り合いもいなし、町会のイベントも参加したことないからどうしよう。
- 年齢や性別等が違う人間同士が共同できるよう、柔軟に対応するむことが大切だと分かった！！
- 避難所で若い女性が性被害にあったり、着替えに困ったりしたときの対策などを聞きたい！！
- 避難行動要支援者名簿を普段か区から町会へ渡してもらって支援しないといけない人を把握したい。
→警察、消防署には名簿を渡している。町会は、ご本人の提供意思があり、かつ、町会が名簿の提供を求める場合はお渡ししています。
- 避難する避難所はあらかじめ決まっているの？
→特に指定されていませんが、地震の時は、ご自身のお住まいの地域の町会が運営している避難所へ行くようお願いしています。水害の時は、浸水する場所によって避難所の開設状況が変わってきますので、区からの避難情報の確認をお願いします。
- 水害時の垂直避難ってどれくらいの期間できるの？
→ちゃんと備蓄をしたうえで1週間くらい目安と考えています。浸水継続時間が2週間以上となる地域へのお住まいの方は、原則水平避難の検討をあらかじめしておいてください。